

JAGES 13-16panel データを用いた地域のボランティアグループ参加割合と個人の抑うつに関連の検証研究に関する研究のお知らせ

神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間	2019年12月07日～2021年3月31日
研究課題	JAGES 13-16panelデータを用いた地域のボランティアグループ参加割合と個人の抑うつに関連の検証研究
研究の概要	<p>目的及び意義：本研究は、地域の高齢者住民のボランティアグループへの参加割合と、その地域に暮らす高齢者の抑うつ状態との関連性（文脈効果）を検証することを目的として実施する。</p> <p>対象：日本老年学的評価研究プロジェクト（Japan Gerontological Evaluation Study；以下、JAGES）では、全国の市町村に、ニーズ調査の調査項目を拡張した「健康と暮らしの調査」への参加協力を呼び掛けており、要介護認定を受けていない65歳以上の方を対象とした郵送調査を過去に5回実施している。</p> <p>本研究では、そのうち、2013調査データならび2016調査データを結合したJAGES13-16cohortデータを用いて二次分析を行うこのJAGES13-16panelデータに格納されている18保険者（24市町村）、65歳以上の高齢者61,267名が対象である。</p> <p>方法：JAGES13-16panelデータは2013年10月～12月並びに2016年9月～2017年1月に、18保険者・23市町村（東神楽町、東川町、美瑛町、岩沼市、柏市、中央市、名古屋市、碧南市、西尾市、常滑市、東海市、大府市、知多市、東浦町、南知多町、美浜町、渡会町、松浦市、豊橋市、新潟市、横浜市、早川町、武豊町）で、65歳以上の高齢者97,870名を対象に実施されたものである。本研究では、JAGES 13-16panel データセットのうち、ボランティアグループ参加の有無と頻度（6項目）、高齢者用うつ尺度（15項目版 geriatric depression scale：GDS）、居住学区、年齢、疾患、家族構成、飲酒、喫煙、教育歴、所得、可住地人口密度について、匿名化された状態でのデータ提供を受け、二次解析を実施する。</p>
研究組織	<p>【研究代表者】・服部真治 医療経済研究機構 研究部 主任研究員</p> <p>【研究分担者】・田村元樹 ヘルスイノベーション研究科院生</p> <p>・坂巻弘之 ヘルスイノベーション研究科 教授</p> <p>・津野香奈美 ヘルスイノベーション研究科 講師 他</p>
個人情報の取扱い	<p>匿名加工情報に該当するためデータについては、保存専用の外付けハードディスクにのみ保存するものとし、分析開始からデータを削除するまで、インターネットへの接続を切断したパソコンで処理することとする。その他、データの取り扱いについては下記とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目的以外の理由で使用しない 2 試料・情報を利用閲覧できる者は研究代表者ならびに研究分担者に限定する
その他	

対象となる方で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の間い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願い申し上げます。

〔問い合わせ先〕

研究分担者： 神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科院生 田村
神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科 教授 坂巻
神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科 講師 津野
TEL : 044-589-8100 (代表) [内線 213]